

「森と生きる小鬼」の舞台となる森林について

今回のおはなしの舞台は、夏緑樹林です。

「森と生きる小鬼」では、北海道の円山原生林を主な舞台と設定しました。

KOBELCO森の童話大賞では、これまで22冊の絵本を作ってきました。その中で、今回が初めて、北海道を舞台にしたおはなしとなります。



北海道の森の特徴

北海道の夏緑樹林の特徴は、本州に一般的なブナ林が渡島半島に限られ、かわってミズナラ林が発達することです。この「ミズナラ」をこの絵本では取り上げています。

兵庫県立大学名誉教授 服部保先生



HP

KOBELCO森の童話大賞HPの「おはなしを書く前に」で、森についての詳しい情報を発信しています。そして公式動画チャンネル(YouTube)でも、「KOBELCO森の学校」と題して、森を学べるコンテンツが盛りたくさん！併せて、ぜひご覧ください。
HP www.kobelco-mori-ohanashi.jp
Youtube <https://www.youtube.com/@kobelco7096>



YouTube

絵本活用のヒント

第12回中高生の部金賞受賞作品

「森と生きる小鬼」



KOBELCO 森の童話大賞について

森はたくさんのいきものの命を育み、空気をきれいにし、水をたくわえ、私たちの暮らしに安全と豊かな恵みを与えてくれます。でも、一度森が元気を失ってしまうと、元通りにするには長い年月と、大変な努力が必要になります。

このような「森」を理解し、大切にすることを、次の世代を担う子どもたちに育んでもらうため、KOBELCOグループは「森」をテーマにしたおはなしを募集し、絵本を作っています。

この絵本を読んで、一人でも多くの子どもたちが、森をはじめとする自然について考え、かけがえのないものであると気づき、そして、いつか、森を、自然を、元気にすることを何か一つでも実行していただければと思っています。

「森と生きる小鬼」の世界

エゾモモンガ



オオウバユリ



エゾアジサイ



オオハナウド



エゾアカゲラ



エゾシカ

クルマバツクバネソウ



ミズナラ

20-30mの落葉広葉樹。寒冷地に多く分布。水分を多く含んで燃えにくいことが名前の由来。

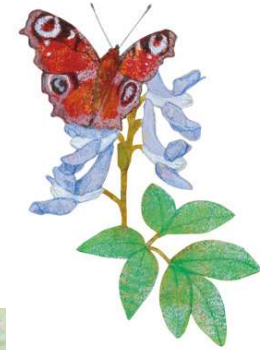
カッコウ



ヒグマ



クジャクチョウ



エゾエンゴサク



エゾクロテン



エゾフクロウ



シナノキ

20-30mの落葉広葉樹。葉は互生で左右非対称のハート形で、ふちには鋭い鋸状歯がある。6月下旬から7月にかけて咲く。たくさんの房状の花は香りがよく、はちみつもとれる。